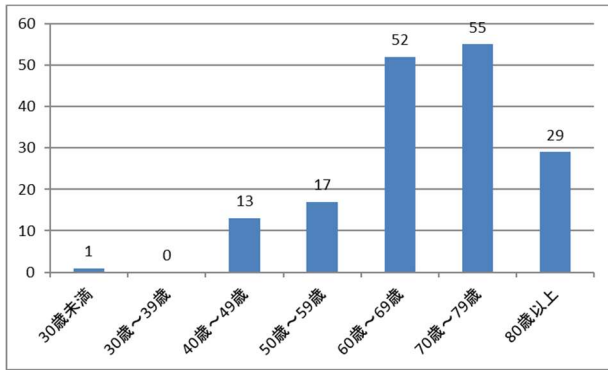
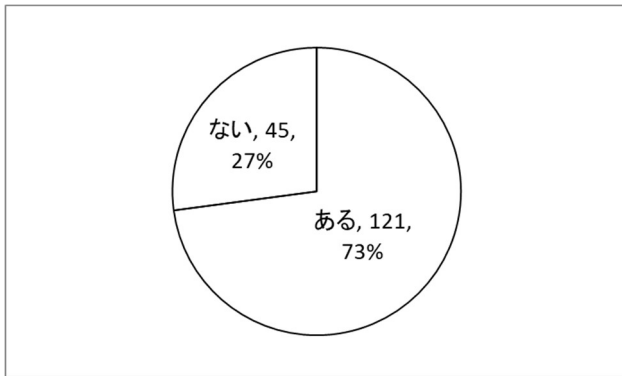


笠原地区

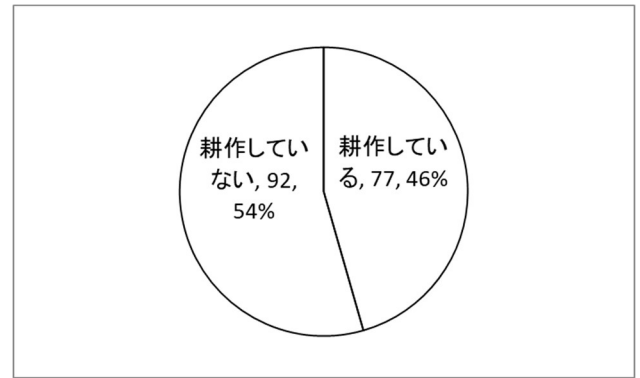
回答年齢



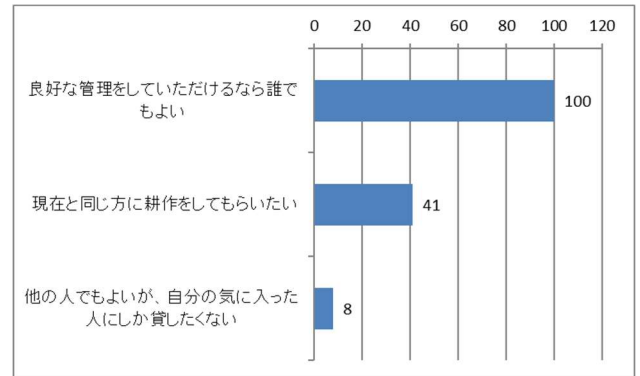
Q2-1 所有農地について 耕作を依頼している土地がありますか。



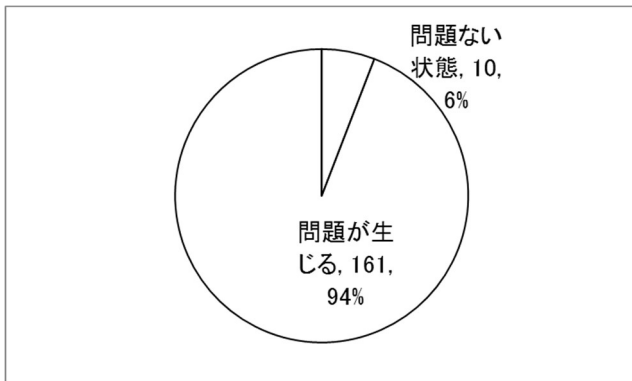
Q1 ご自身の営農状況について 現在、ご自身で耕作していますか。



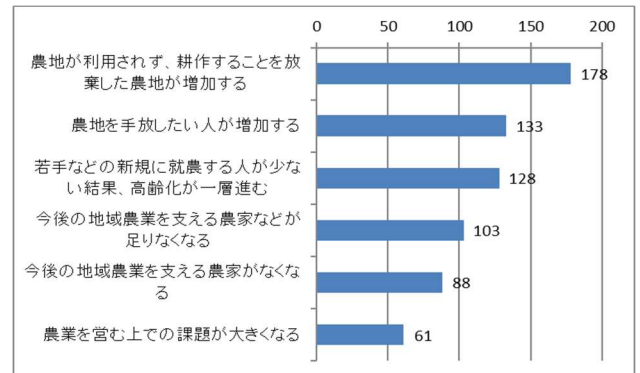
Q2-2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。



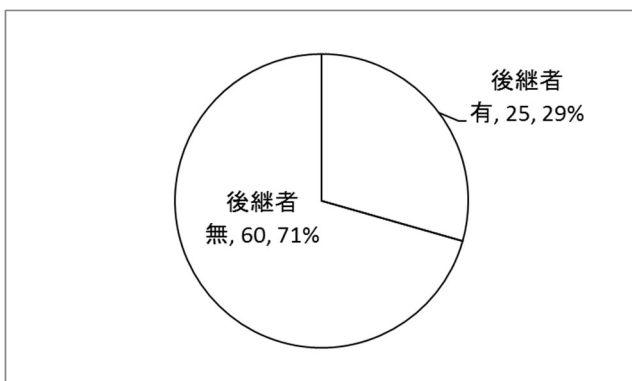
Q5-1 あなたの地域の農業(人と農地)は 10年後にどのようになっていると思われませんか。



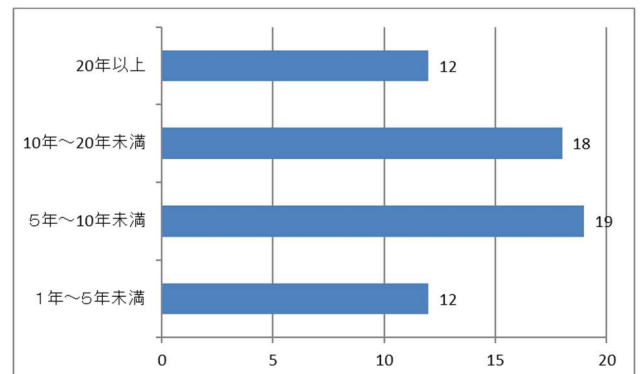
Q5-2 問題と思われる課題



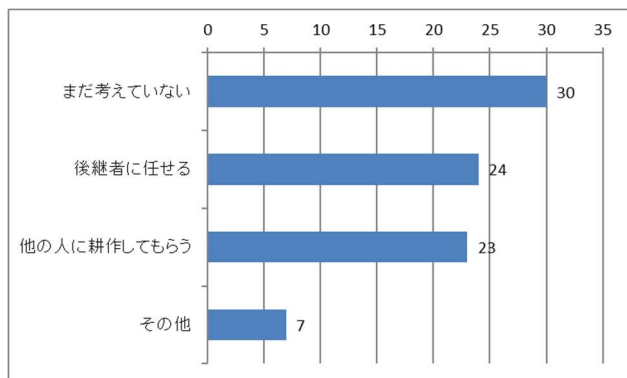
Q7-1 後継者の有無



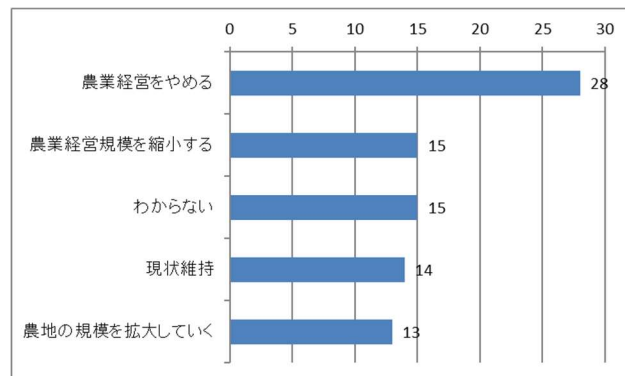
Q7-2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。



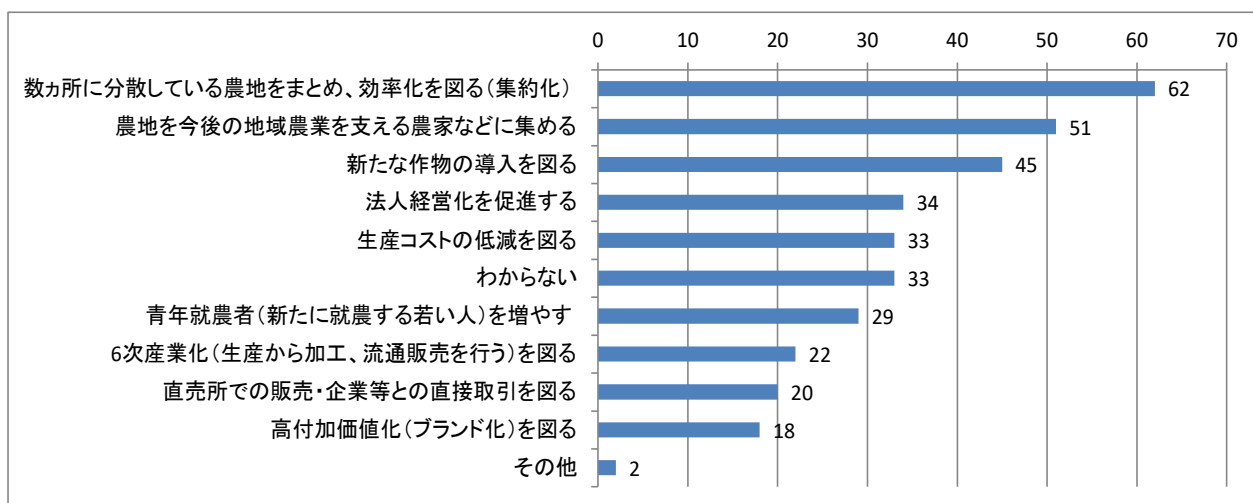
Q7-3 今後、耕作を続けられなくなった場合
どうしますか。



Q9 今後（10年後）のあなた自身の経営方
針を教えてください。



Q10 今後の（10年後）の地域農業について、どのような取り組みを行い、発展させていく
必要があると思いますか。



笠原地区農業推進委員会 アンケート結果

【対象者】 265人

【回答者】 172人

【耕作地区】 五十岡 21人 西区 19人 上区 37人
東区 10人 下区 12人 南区 6人
三沢 46人 三輪 17人 柏木 9人

【性別】 男性 153人 女性 19人

【職業】 専業農業者 67人 兼業農業者 24人 農業以外 74人

【年齢】 30歳未満 1人 30歳～39歳 0人 40歳～49歳 13人
50歳～59歳 17人 60歳～69歳 52人 70歳～79歳 55人
80歳以上 29人

【耕作面積】 ①自分で耕作していない 92人 ②3,000㎡未満 8人
③3,000㎡～10,000㎡未満 27人 ④10,000㎡～100,000㎡未満 28人
⑤100,000㎡以上 12人

【設問1】ご自身の営農状況について

1 現在、ご自身で耕作していますか。

耕作している 77人 耕作していない 92人

【設問2】所有農地について

1 耕作を依頼している土地がありますか。

ある 121人 ない 45人

2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。

① 現在と同じ方に耕作をしてもらいたい。 41人

② 他の人でもよいが、自分の気に入った人にしか貸したくない。 8人

③ 良好な管理をしていただけるなら誰でもよい。 100人

【設問3】 今後、所有している農地について、どのように考えておられますか。(未耕作者)

- ① 今後も農地として、耕作してもらおう。 49人
- ② 農地以外の用途に利用していく。 17人
- ③ その他 22人

【設問4】 集約化に向けた課題 地域内で年貢、小作料の統一が必要か

- ① 統一すべき (例 10a 当たり 10,000 円) 61人
- ② 農地等の条件が違うため、統一はできない。 91人
- ③ その他 5人

【設問5】 あなたの地域の農業 (人と農地) は 10 年後にどのようになっていると思いますか。

- 1 問題ない状態 (各世代の農業者によって持続的な農業が営まれている) 10人
- 2 問題が生じる。 161人

(問題と思われる課題を回答してください[複数回答可])

- ① 農地が利用されず、耕作することを放棄した農地が増加する。 178人
- ② 今後の地域農業を支える農家がなくなる。 88人
- ③ 今後の地域農業を支える農家などが足りなくなる。 103人
- ④ 若手などの新規に就農する人が少ない結果、高齢化が一層進む。 128人
- ⑤ 農地を手放したい人が増加する。 133人
- ⑥ 農業を営む上での課題が大きくなる。(例：近隣からの苦情等) 61人

【設問6】 耕作することが困難となった場合 貸出方法 (複数回答可)】 農地を貸し出すことになった場合について、どのような方法が良いと考えていますか。

- ① 貸し手と借り手相対で行う。(利用権設定事業) 57人
- ② 農地中間管理機構が仲介して行う。(農地中間管理事業) 98人

【設問7】 耕作している方にお聞きします。現在、後継者の目処はついていますか。

1 後継者の有無

- | | | |
|---|---|-----|
| ① | 有 | 25人 |
| ② | 無 | 60人 |

2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。

- | | |
|-----------|-----|
| 1年～5年未満 | 12人 |
| 5年～10年未満 | 19人 |
| 10年～20年未満 | 18人 |
| 20年以上 | 12人 |

3 今後、耕作を続けられなくなった場合はどうしますか。

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 後継者に任せる。 | 24人 |
| ② 他の人に耕作してもらおう。 | 23人 |
| ③ まだ考えていない。 | 30人 |
| ④ その他 | 7人 |

【設問8】 耕作している方にお聞きいたします。

現在、あなた自身の経営は、地域の中でどういう位置づけだと思えますか。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| ① 地域の中心となる農家であり、今後も中心になると思う。 | 11人 |
| ② 値域の中心となる農家であるが、将来的には中心にならないと思う。 | 8人 |
| ③ 今は地域の中心となる農家ではないが、将来的には目指していく考え。 | 9人 |
| ④ 今は地域の中心となる農家ではなく、将来的にも考えていない。 | 47人 |

【設問9】耕作している方にお聞きします。

今後（10年後）のあなた自身の経営方針を教えてください。

- | | |
|-----------------|-----|
| ① 農地の規模を拡大していく。 | 13人 |
| ② 現状維持 | 14人 |
| ③ 農業経営規模を縮小する。 | 15人 |
| ④ 農業経営をやめる。 | 28人 |
| ⑤ わからない。 | 15人 |

Q9で規模を縮小する又は農業経営をやめると答えた方にお聞きします。

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ① 農地は今後も（貸すなど）農地として残していきたい。 | 17人 |
| ② 農地以外の用途で活用したい。 | 20人 |

【設問10】今後の（10年後）地域農業について、どのような取組を行い、発展させていく必要があると思いますか。〔複数回答可〕

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ① 農地を今後の地域農業を支える農家などに集める。 | 51人 |
| ② 数カ所に分散している農地をまとめ、効率化を図る。 | 62人 |
| ③ 生産コストの低減を図る。 | 33人 |
| ④ 新たな作物の導入を図る。 | 45人 |
| ⑤ 直売所での販売・企業等との直接取引を図る。 | 20人 |
| ⑥ 6次産業化（生産から加工、流通販売を行う）を図る。 | 22人 |
| ⑦ 高付加価値化（ブランド化）を図る。 | 18人 |
| ⑧ 青年就農者（新たに就農する若い人）を増やす。 | 29人 |
| ⑨ 法人経営化を促進する。 | 34人 |
| ⑩ その他 | 2人 |
| ⑪ わからない。 | 33人 |

◎ご意見等

- ・住宅地周りの耕作放棄地が目立つ。
- ・宅地化推進。
- ・茶畑の耕作放棄地が増加。
- ・茶畑には、小面積、斜面は適さない。
- ・茶の単価が下がり、赤字経営。
- ・借手も手一杯で貸し手も困る。
- ・がりがりの山土で何ができるか、とても困っている。
- ・地続きの隣までが工業団地になるそうで、うらやましくてたまりません。
- ・袋井市が私共のことをどう考えているのか聞きたい。
- ・お茶の単価が年々安くなり、やっていけない。
- ・茶の耕作放棄地が拡大しているなかで、新しい作物への転換がまったく推進されていないことが今後の優先課題。
- ・農業だけでは生活できない。
- ・経営が成り立たない
- ・耕作放棄した畑をどのように改善したよいかわからない。
- ・土地改良等の賦課金を支払わなくてはならないので悩んでいる。
- ・農業を辞めたら畑を荒らすことに抵抗があり、草をとったり管理はするが、その努力も力尽きる。よって、荒れた農地となる放置しているわけではない。
- ・土地を売りたい、手放したい。
- ・小作している人がお金をよこさない。
- ・農業をしたくても赤字で経営が出来ない。
- ・純農地は、農地として住宅周辺の農地は別用途に利用。
- ・このままでは、米作以外は、放棄されて、生活環境の悪化、現金収入がない。

◎その他のご意見

- ・放棄地対策は、生産法人また専業大規模農家の育成から。
- ・土地利用の見直し必要、敵地適作、住宅地周辺の荒廃目立ちます。
- ・生産法人に働く新規就農者又従業員の新規募集を専門に行う人員斡旋（人材）を政策的に行っていく。
- ・現在の一次産業の中で、一番の問題は茶栽培経営者の皆さんだ、資本投資の拡大、生産物の低価格化と逆さ現象が起きています。
- ・広い農地の利用方法、耕作にしばらず施設でもよいではないか。
- ・米価が下がることが予想され、経営が圧迫することが考えられる。
- ・水稻の小作料の見直し。
- ・茶栽培農家は、お茶の低価格化が深刻。
- ・農地を集約していても、道が狭く大型車は入れず、出荷に困る。
- ・他の作物への転換支援。
- ・意見が反映されない形式だけのアンケートは今後やめて頂きたい。

- ・茶畑について豊笠土地改良区の賦課金が大きい問題。
- ・今後の取り組みといっても今 60 代が主な人材では、何ができるか。
- ・動けるまでは、やりたいが先が見通せない。
- ・賦課金は毎年支払っているが、農業用水が何年も使えない
- ・できれば売りたい。
- ・青地・土地改良等の制約をはずし、公社等で開発事業を起こす。
- ・青地の見直し。
- ・今回のアンケートの農地とは、田が主なのか畑が主なのか回答に困りました。
- ・青地・畑かんの見直し、茶畑の管理費用がかかり困る。
- ・土地を売りたい。
- ・農地等の荒地が増え、猪も増え農地を守るのが大変。
- ・赤字経営だが耕作放棄地にしないためだけに耕作している。
- ・耕作放棄の畑が今さえたくさんできてしまっているので、後継者がいないことが難しい。
- ・専業農業者を増やし、農地をまとめ大規模農業を行なう。
- ・耕作放棄地の畑かんの負担金は早急に除外すべき。
- ・茶の経営安定を望む。
- ・機械等は高額なので、農業を辞める人が急増し、耕作放棄増加。
- ・農業軽視、国の農業に対する考え方が浅い。
- ・笠原地区に適したものがあればと思う。野菜は手がかかるため、茶園放棄地に果樹とかを植える。
- ・水田の借手は多いが、茶畑は借り手がない。
- ・豊笠土地改良区内の茶畑は、賦課金のこともあり土地をもっているが大変。
- ・売りたいでも買い手がない。
- ・農業への取り組みが遅すぎる。
- ・廃業するしかない。
- ・補助事業が土地の有効利用の足かせになっている。
- ・個人としては、方向性が見いだせずにあります。
- ・この笠原地区としてよりよい意見を伺いたい。
- ・荒れた土地が多くなり、防犯上危ない。
- ・防霜ファンの音・肥料の臭い等苦情の原因。
- ・耕作面積が少なく、後継者不在。
- ・私が元気うちに手放したい。
- ・後継者のいない農地を全て大型農地として利用すればいい。
- ・低価格で不安定。
- ・農地を農地として利用するのがよいのか農地利用係の人はどう思いますか。
笠原地区はそれに縛られた地域格差に負けた現状を他地区並みな生活水準になるように考える。
- ・若い人が農業など手伝っている人がほとんどいない。魅力を感じていないようです。
- ・茶価が低迷し、所得が少なく赤字にならないければいいが。

- ・耕作者が遠方の場合、色々と問題がある。
- ・農地を手放したい。
- ・高齢で1人暮らしで困っている。
- ・農地面積が少なく、兼業でないと生活できない。
- ・米作・茶農家が多いが、ブランド力が低い。付加価値の高い作物を考え、耕作から流通までの経営戦略を考え、法人化したほうよい。
- ・今のままだと、農家の経営が息詰まると思う。
- ・畑の草が道路にまで出ていて車で走るのに怖いところもあります。
- ・畑の持ち主に注意していただきたいと思います。
- ・何かよい方法があれば農地以外でもよいと思います。
- ・新規就農者を増やす。
- ・耕作してくださる方がいれば手放したい。それが難しいとなると、他の用途で使用できるように考えてほしい。
- ・現在、耕作を依頼しているが、世代が変わると相手のこともわからない状態。是非、法人化して管理してほしい。
- ・農地をどうしたらよいのか、本当に困っています。
- ・アンケートで終わることなく、早い対応を期待します。
- ・茶畑は、放棄園が増え現在耕作している農業者も隣接茶園が荒らされると管理の継続が難しくなる。
- ・地主は、放棄園の畑の回りぐらい管理してほしい。
- ・茶畑は他の用途に利用していく。
- ・農地を手放したい。
- ・基本的方向は、担い手に農地を集約化することである。
筆によって担い手が利用しやすい筆、利用できない筆があり、筆ごとに意向などを把握する必要があると思います。
- ・青地農地の見直し必要、青地山林など、本当に無意味だと思います。時代にあった対策をお願いします。
- ・農地を集約して大型化を図り、希望者が経営。
- ・近隣、住宅回りの農地は、白地に変更し、自由に耕作、他の事業が行えるようにする。
- ・笠原地区農地計画、青地の見直しを早急に行うべき。
- ・パイロット長坂地区の畑はいらない。
- ・畑かん事業の賦課金の負担金が大きくなってきている。
- ・水を使用しない時は、負担金の免除・軽減をしてもらいたい。